

倍液撒布区が無撒布区に比して玄米重で 3.6%低かつた外は各区共多かれ少なかれ無撒布より高かつた。以上 Tuzet 液剤の場合 1000 倍稀釈でなお収量に多少の薬害がみられるが、粉剤形態では安全なようである。

又西砺波郡福光町において農林 1 号で行つた Tuzet とボルドーとの混用試験では第 2 表にみられるように撒布区は何れも顕著な防除効果を示した。収量においても Tuzet 500 倍液単用区が無撒布区を下回つた外は何れも 2~10% の増収となつた。

むすび 以上の各試験からモンガレ病防除には Tuzet の効果が卓越しており、薬害の点で多少マイナ

スの作用があるが、本病のかなり発生する様な地帯では、その発病抑制の効果で薬害を補つて余りあるものと考えられる。尚タルク増量の場合効果及び薬害の点で好結果を得たので今後更にこの形態について検討したい。液剤形態では防除効果、薬害及び経済的見地から 1000 倍以上の稀釈が良いと考えられるので更にこの点も研究を重ねるつもりである。ボルドーとの混用は効果、薬害からみて効果的であつたが液の懸濁性が悪くなり噴口をつまり易くする欠点がある。Tuzet 以外では MMC 剤が良いようであるが Tuzet に比してかなり劣る結果となつた。

第 2 表

区	Tuzet 濃度	発病率	被害度	収量比
Tuzet × 500	0.2 %	0.8 %	0.2 %	96.9 %
" + 6 斗式ボルドー	0.2	0	0	102.1
" + 1 石 2 斗式ボルドー	0.2	0.3	0.1	110.5
Tuzet × 1000	0.1	0.9	0.2	107.3
" + 6 斗式ボルドー	0.1	0.2	0.1	109.4
無撒布	—	87.5	23.8	100.0

備考 6 区 2 連制 1 区 6 坪、1 区 10 株調査。薬剤撒布 6 月 25 日、7 月 5 日、7 月 14 日の 3 回。調査 9 月 5 日 (収穫期)。

モンガレ病防除試験 (2)

Tuzet 剤及び他の液剤、粉剤の効果について

望月正己・田口 吟・沢崎 彬

(富山県農業試験場)

モンガレ病の特効薬として紹介された Tuzet 剤の北陸稲作に対する適合性をボルドー液及びその他数種の殺菌剤と共に防除効果比較試験成績は次のようである。

液剤による試験 対象品種に北陸 57 号を用い、N 質肥料を多目に施用した圃場で 6 月 20 日、6 月 30 日、7 月 10 日の 3 回に亘り各薬剤共反当 4.5 斗を株元に対して撒布した。初発生がかなり遅かつたが Tuzet 500 倍液区及び Tuzet 500 倍 + 6 斗式ボルドー液区は他の区より約 1 ケ月も遅れて発生が認められた。他の区では

初発生以来標準無処理区と殆んど同じように発病進展したにもかかわらず、上記 2 区は極めて僅かの発生しか認められず、被害度は皆無に近かつた。しかし、Tuzet 500 倍液区では薬害が多目に発生し下位葉及下位葉鞘に明らかな斑点(紋)及汚染が表われた。これは Tuzet 剤の濃度が 500 倍であつたために特に発生したものと考えられるが収量にまで影響し被害度に比較して増収率は少なかつた。また、Tuzet 500 倍 + 6 斗式ボルドー液区は薬害がかなり軽減され、収穫量は最も多く標準区に比較して約 1 割の増収であつた。

第1表 液剤による防除試験成績 (3区平均)

項 目	発 病 茎 率 %						被害度%	収 量 比 (玄米重)%
	6.26	7.9	7.20	7.30	8.21	10.2		
調 査 月 日	6.26	7.9	7.20	7.30	8.21	10.2	10.2	10.2
Tuzet 500 倍 区	0	0	0	0	0	1.6	0.2	102.0
6 斗 式 ボ ル ド ー 液 区	0	0	0	0.7	39.1	34.2	6.0	104.0
Tuzet 500 倍 + 6 斗 式 ボ ル ド ー 液 区	0	0	0	0	0	0.5	0.1	109.0
水 銀 ス プ レ ー 区	0	0	0	0.5	55.7	49.8	8.0	98.0
水 銀 ボ ル ド ー 区	0	0	0	0.2	33.5	37.5	6.4	106.0
標 準 無 撒 布 区	0	0	0	3.0	44.3	44.2	7.6	100.0

第2表 粉剤による防除試験成績 (3区平均)

項 目	発 病 茎 率 %						被害度%	収 量 比 (玄米重)%
	6.22	7.2	7.11	7.23	8.13	10.25		
調 査 月 日	6.22	7.2	7.11	7.23	8.13	10.25	10.25	10.25
Tuzet 500 倍 区	0	0	0	0	1.0	8.7	1.3	103.9
銅 粉 剤 区	0	0	1.2	1.9	57.7	57.6	9.3	101.7
モ ン ガ レ 粉 剤 区	0	0	0.8	0.9	21.4	52.5	8.4	99.8
モ ン ガ レ 粉 剤 (水中 24-D 加用)区	0	0	0.8	1.8	49.4	48.8	7.6	100.7
銅 水 銀 粉 剤 区	0	0	2.1	3.9	62.8	70.3	11.3	98.0
標 準 無 処 理 区	0	0.5	1.2	2.5	22.8	77.4	12.1	100.0

粉剤による防除試験 対象品種に農林8号を使い、液剤試験と同様にN質肥料を多目に施用し、モンガレ病の発生を促がす様にした圃場で各粉剤共反当 4.5kgを株元を目標に6月22日、7月2日、7月11日の3回(24-D加用のみ7月11日の1回)撒布した。

当初予定したTuzet粉剤が入手できなかつたので、Tuzet 500倍液を反当 4.5斗使用したところ、Tuzet区は殆んど発病せず液剤試験の場合と大差なく、効果は大であつた。他の粉剤ではモンガレ粉剤+水中 24-D

加用区は1回のみ撒布であつたが、Tuzet区を除いた他の区より発病及被害度共に少なく、収量も多い方であつたが、他にはみるべき薬剤はなかつた。

以上2種の試験結果からみると防除薬剤としては、Tuzet 剤以外には適当なものがなく、また、Tuzet 剤も2000倍程度にして株元に撒布する必要があり、時期は多少遅れても1~2回撒布で充分防除できると考えられるが明確には今後の試験が必要である。